

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

VOL. 19

2015.3

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



01 誌上ゼミ

「福祉」の理論を学び、
技術を身に付けた専門職をめざして

05 学問へのいざない

「行動の裏にあるもの」を学ぶ
「共感とともに理解すること」を学ぶ

07 特集

初開催!! みんなの想いをカタチにして
第1回クリスマス・マーケット
in 宮城学院女子大学

09 ACTION

地域との深いつながりの中で
学生パワーを発信!

11 My way MG way

卒業生の仕事場訪問

13 サークル紹介

14 CAMPUS NEWS

15 MGにまつの人あり

「ウィリアム・S・カンディフ」

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

福祉の理論を学び、 技術を身に付けた専門職をめざして

「福祉の学びや相談援助の演習を経験した4年生の気づきと振り返り」

個性を認めながら
社会での権利が守られる
環境をつくるにはどうするべきか



熊坂聡教授

熊坂 今日、それぞれ進路が決まった4年生に集まってもらいました。福祉コースでは、一貫したテーマである福祉の理論を学び、相談援助技術を身に付けるための

授業を行ってきました。2年次から理論と技術を学んだことで、実習や生活の中で気づくことがあつたのではないかと思います。そうしたことの振り返りをおこなって、みんなでディスカッションしてみたいと思います。

小林 私の実習先の障害者施設に50代の女性がいました。その人はかわいい服装がとても好きで、周囲もそのことは理解しているのですが、女性が通っている他の事業所から「年相応の格好をした方がいい」といわれて、突然地味な服を着るようになりまして。私としては、女性の思いを尊重してあげた方がいいと思うんですが、どう思いますか？



発達臨床学科

熊坂 聡教授

[4年生ソーシャルワーク実習の皆さん]

小野友梨栄さん 及川舞さん
柴崎みなみさん 菅原春花さん
小林花菜子さん



柴崎 好きな服を着ること自体は良いけれど、注意した方には外出した時に女性が「偏見をもった目で見られないように」という思いがあったのではないのでしょうか。

見る人によって「個性豊かな人ね」と思う人もいれば、「なぜそんなの服装なの？」って思う人もいるのは事実ですよね。

小林「人は人」という感覚にはならないかな？

菅原 障害者を理解していないとそういう問題が起きると思います。福祉を学んだ私たちはそれを知っているから、少しでも周りに理解してもらえるように働きかける必要があるんじゃないか。人権を守るためにその人の価値を押しつづすような環境はおかしいし、福祉に理解ある国だったら問題にならないことだと思うから私は小林さんの意見に賛成です。

熊坂 人権を考えていくと、本人なりのスタイルを世間から誤解されないように変えてしまうのはおかしいという意見も理

解できます。

柴崎 私たちは「個性を殺している」と思うけれども、一般の人たちには理解できないと思います。

小野 例えば私たちと同じ20代の人たちで目立つ服装をしている人たちを見た時、私たちが「あれ？」って思うでしょ。それは障害以前の問題で、日本の傾向として同化したがる社会だからじゃないかと思えます。

小林 どちらかというと私自身は人と違う方々行く人間だからそれとは違うけど。

小野 でもそういう人がいるから、違いに気づけるのではないのでしょうか？

小林 ひとり一人個性が大事っていうことを尊重してあげたいです。

菅原 根本的なところに問題があるのだから、保育など小さい頃からそういう教育を広めていく必要があると思います。違うことが普通ということに馴れさせることが大切なんじゃないでしょうか。

熊坂 日本では障害者が歩いていると振り返って見るけれど、アメリカやデンマークの人は、車いすの人が脇を通り過ぎていても振り返って見たりしないんです。個性に対する見方が違います。



小野友梨栄さん



及川舞さん



ら珍しいと思います。

熊坂 障害者総合支援法が進み、障害者
がもつと地域社会の中に出て歩くように
なると、周りの理解も変わってくるかもし
れない。そういう中で住民の理解の仕方
もどんどん変わってきている、そこに期待
したいですね。

「すみません」から「ありがとう」へ 偏見を乗り越えた地域社会を創ろう

柴崎 東京で満員電車に乗る機会があつ
たんですが、そこに重度の障害のある男
性とお母さんが乗ってきました。男性は
私より年上。そうしたら満員のはずなの
にその親子の周りのスペースが空いたん
です。しょうがないかなと思っていたら、その
男性と目があつて手を伸ばして来たんで
す。私はうれしかったんですが、お母さんが
「すみません」つて止めるんです。今、地域



柴崎みなみさん



菅原春花さん



小林花菜子さん

で暮らせるように支援が変化しているけ
れど、地域で住むことで家族負担も大き
いし、また障害者の受入体制やソーシャル
インクルージョンの実現は難しいと思つた
し、さつきの菅原さんの意見を聞いて幼稚
園・保育所の頃から関わる機会を増や
すことが必要だとも思いました。

熊坂 お母さんが「すみません」を言わなく
ちやならない社会は悲しいですね。

小野 その人が持っている枠に、柴崎さん
は入つて行こうとしたけれど、周りは枠か
ら離れようとした。その違いを知っている
人たちが増えれば、枠に入っていく人たち
は増えていくと思います。それよりもお母
さんの方が気になりました。

熊坂 福祉で働く人たちも、社会を変え
ていくという役割があります。でも僕は世
の中を変えていくためにはやはり子ども
を抱えた親御さんたちががんばつてほしい
と思うし、我々ができるのはそれをお手伝

いしていくことだと思うのです。福祉で働
く人たちは、もつと大きな意味で社会を
変えていく別の動きをしていかなくちやな
らなと思います。「すみません」と言いつつ
も、何人か手をさしのべる人がいて、それ
がいろんなところで話題になって広がりを
もつていくことを願いたいと思う。だから
僕はお母さんにごんばつて欲しいし、お
母さんががんばれないところをサポートし
てあげられたらいいと思います。

小野 「すみません」ではなくて「ありがとう
う」と言うのはどうかな？

菅原 地下鉄の優先席とか「ありがとう
席」にしたらいいかもかもしれません。

小野 席を譲ると怒る人もいるじゃないです
か。それは援助する側もされる側も偏見
があるのかもしれない。偏見を持つている
から自分が特別扱ひされることがいやな
のかなと。

熊坂 お母さんの言葉の中にも、実は偏見



があるのかもしれないね。「すみません」という言葉の方に注目が行きましたけど、これを「ありがたい」といって電車に乗ることができたらしいですね。

**集団適応はしていくもの？
させるもの？理想を持っているから
現実対応できるはず**

及川 アルバイト先の保育所で1歳児のクラスを担当しているんですが、そこには入って間もない男の子がいて、集団の中に入っていない状況です。自由遊びの時間にも、自分の見つけた窓際のスペースで二人で遊んでいます。先生は「そっち行っちゃだめよ」と言っ、集団の中に戻すけれど、環境に慣れるまでは時間がかかると思うし、自分から集団に入っていけるようになるまで、小さい家のような空間を遊び場に置いたら状況が変わるのでは？と思っ、今度保育士さんに話してみようと思

っています。

熊坂 そこにいくと先生方の視界から離れてしまうということ？

及川 そうなんです。目が行き届かないところなので危ないと思うんです。

柴崎 先生は安全性を考えているけれど、その子には本当は他に理由があつてそこいるのかも。友だちと何かあつたかとか、家庭でなにかあつて不安でそこにいるのかもしれません。

熊坂 先生方はできるだけ早く環境に慣れて、自分でできるようになつてもらいたいと思っているのかな？でも及川さんは本人が成長すれば変わっていくから、自ら脱するまで待つてあげた方がいと思っているのでしょうか？

及川 はい、そうなんです。

熊坂 みんなの中に連れてくるのは強引なやり方かもしれないけれど、子どもの持つている力を考えたときに、多少ストレスがかかってもそうすることで急速に周りに適



応していつて本人の気持ちも自由になつていくということはありません。

及川 できれば自ら適応していくというふうを持つていきたいんです。でも現場全体を考えると、集団適用させようと思っるのかとも思います。

熊坂 でも「集団適応は本人がしていく」という考え方はぶれない軸として持つてい

てもいいんじゃないかな？

菅原 大学4年生だから、適応していくことがいと強気でいえるけど、1年後もいえるかという自信がないかも。

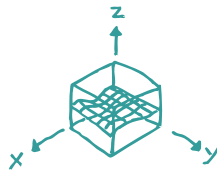
及川 現場に行つてみると、適応を待つのは難しいのかなとも思う。1年後の自分は変わっているかもしれない。

菅原 卒業して現場についても「今はこうだけど本当はこうだね」と、理想に帰る場が必要なのかなと思っますね。

熊坂 現実的に対応していくとしても、理想は持つべきだと思う。でも理想の通りいかないから現実は大めと考えると仕事ができなくなつてしまふ。理想を持つているからこそ現実対応が許されるし、理想を持たないままに現実対応していくことは迷うと思っます。みなさんは勉強してきたことが頭の中にあつて、浸透しているから社会についていろいろな発言が出てきている。それに

気づけたうれしい時間でした。
(全員)ありがたいと、言いました！





「行動の裏にあるもの」を学ぶ

算数・数学教育、教育方法 中込雄治 教授

一つの正解にたどり着く道が
たくさんあることを伝えられる人に

「算数・数学は、たくさん覚えた公式
を使って解くもの」と考えているなら、そ
れは大きな誤り。一つの解に向けてさまざ
まな道筋を立てる、その「道筋」を自分
で作ることが算数・数学であり、そ
の醍醐味であるからです。

現在は、小学校の教員を目指す学生
に向けた「算数概説」「算数科教育法」
などの授業を担当しています。どの授業
でも重きをおいているのは、「児童たちの
アプローチを活かしながら、解へと導く手
法」です。例えば「四角形の角度の和は
360度である」という証明ではまず、
四角形に補助線を引きますが、この線は
どんな風に引いても、アプローチ次第で大
抵は正しい解答に至ります。しかし教科
書では理想的な補助線と、それを使った

一つのアプローチを示すのみ。学生たちに
は、児童にこうした型通りの解法を「暗
記」させるのではなく、アプローチ法はほ
かにもたくさんあることや、それを発見
する楽しさを伝えることのできる教員に
なつて欲しいと考えています。

自分で考えて動く、学生たちの
熱意に驚き、感心した瞬間

同時にLACでは、学生たちと共に「教
具開発」を行っています。ひと目でわかり
やすいもの。児童が扱っても壊れないもの。
そして理想的なタイミングで理想的な形
状になるもの。月に一度「発表会」を行い、
素材や形、色、扱い方などを試行錯誤
しながら、吟味していきます。

つい先日、教員試験を控えた学生たち
から模擬授業の講評を頼まれたのです
が、いざ指定された場所へ行くと、黒板に
はプログラムがしっかりと書かれ、その準備



ぶりに驚かされたものです。大学とはそも
そも「学びたい人」が「専門家」を呼び、
教えてもらう「場」ですが、学生自身が
会場を支配し、教授にアポを取り、タイム
スケジュールを仕切り、運営する姿に、その
大学本来のあり方を見た気がしました。
こうした熱心さが功を奏しているよう
で、今年の教員試験では29人中19人が
合格しました。実に66%の合格率です。
彼女たちが世に出て、一人でも多くの算
数・数学好きな子どもを増やす教員に
なつてくれることを、願つてやみません。

Profile 東京都出身。兵庫教育大学にて論文により学位取得。博士（学校教育学）。2013年に本学に
着任。編集した本「新教科書を補う算数科発展学習教科書第3巻」(明治図書)、「算数科の到
達目標と学力保障第6巻」(明治図書)。○信条「アイデアがすべて」

私のおすすめ本

メン
プラトン 著 藤沢令夫・訳

メンという青年将校とノクラテスがやりとりをするくだり
で、「数学的な思い込み」にまつわるエピソードが出て
きます。人はどんなケースで、いかなる思い込みをし
まうのか。教育の現場にも応用できる、大変興味深
い内容になっています。



これが学びのツボ!

インターネットを使えば、答えに素早くたどり着く
時代。しかしそえて得た知識はすぐに忘れてし
まいます。学生たちにはまず自分なりの仮説を
立て、他の説と比較検討しながら「正解へ
と辿り着く」力を養って欲しいですね。



「共感とともに理解すること」を学ぶ

中国語・中国近代史 小羽田誠治教授

「伝えたい」と思う気持ち
より豊かな言葉を引き出す

私は中国近代史を専門としつつ、一般教育科目では中国語を担当しています。

中国語は日本人にとって「漢字」で意味が把握できる分、ほかの外国語に比べて親しみやすい一方、漢字に頼りがちで、ヒアリングや発話が伸び悩みがちな言語でもあります。中国語は発音と同じくらい「声調」という「音の高低」が大切で、同じ音でも声調が異なれば、言葉の意味も異なります。ですのでまず耳を鍛えることが重要になってきます。

私の授業では、教科書を使用せず「絵などを元に実践的な会話をする」ことが中心です。例えば犬の絵を見ながら「あなたは犬が好きですか?」「はい。私の家では犬を飼っています。名前は〜」というように、まず私の中国語による質問を聞き

取り、その人なりの答えを中国語で返してもらいます。心がけているのは「つい答えたくなる問いをすること」。発話する側が「これを伝えたい」と思うことで、より多くの言葉が引き出せるからです。また現在は「耳」以上に「口」を鍛えることを意識

しています。母国語を話すとき、文法を気にする人はいませんよね。まずは自分で文章を考え、何度も口にすること。中国語に口を慣れさせることが必要です。

**出来事の裏に隠されたドラマを
感じることでより理解も深まる**

中国近代史は、日本でいう幕末から明治維新の時期に始まります。それはかつて、世界の中心として栄華を誇った中国が、やがて西洋の衝撃を受けて混乱していく時代。当時の人たちが、過去の栄光やプライドに折り合いをつけながら、新たな文化を取り入れていく。その葛藤に共感をし

つつ、学んでもらえたらと考えています。

歴史は大抵「暗記教科」とみなされ、年号や人名などを記憶さえすればいいと捉えられがちです。しかし一つの「結果」は、携わった何人もの人間が、それぞれの状況や思惑が重なりあつた末に至るもの。他人事だと思わず、そこにドラマを見出すことで理解が立体的になり、興味もきつと深まるはず。社会経験のない学生にとって、感じ取りにくい部分も多いかもしれませんが、イメージし共感する気持ちをぜひ大切にしてください。



Profile

兵庫県神戸市出身。中国四川聯合大学歴史学部卒業。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学。2005年より現職。○信条「後悔しない」「他人のせいにならない」

私のおすすめ本

口を鍛える中国語作文—語順習得メソッド—【初級編】

平山邦彦著

付録のCDを聞きながら、中国語の文を自分で考え、発話することに主眼を置いたテキストです。「聞くだけ」「読むだけ」だけでは伸ばせない、会話力を鍛えます。ひとりで勉強するにもピッタリ。まさに「使える中国語」が身につきます。



これが学びのツボ!

単に「知識を得る」ことに留まらず、まずは対象を自分に近づけ、実感を持って学んで欲しいですね。近頃、中国と日本の関係は芳しいものではありませんが、彼らの文化的背景を知れば、理解できる部分も少なくないと思います。

初開催!!

みんなの想いをカタチにして 第1回 クリスマス・マーケットin宮城学院女子大学

「クリスマス・マーケット」とは、おもにドイツ語圏で古くから行われている、クリスマスシーズンのお祭りです。ぜひこのお祭りを宮城学院に！という学生たちの熱意のもと、はじめての「クリスマス・マーケットin宮城学院女子大学」が開催されました。ここでは、ボランティアとしてかかわった先生や学生にお話をうかがいました。



(前列左から)
人間文化学科 2年 小畑友理奈さん(メインビジュアルデザイン担当)
準備チーム代表の間瀬幸江准教授
国際文化学科 2年 佐藤寛恵さん(「わくわくマルシェ」担当)
(後列左から)
食品栄養学科 3年 室岡奏美さん(「うふカフェ」担当)
国際文化学科 3年 井筒仁菜さん(パフォーマンスブース担当)
食品栄養学科 3年 高橋佑実さん(「おいしいマルシェ」担当)



本場・ドイツ仕込みのレシピで作ったホットドリンク「キンダーブッシュ」



手回しオルガンに子供も興味



社会で活躍する卒業生がマルシェの原動力

みんなで、はじめての挑戦! 準備もめいっぱい楽しんで

「ぜひ宮城学院でも『クリスマス・マーケット』を開催したい」。こう考える有志たちが集まり、昨年(2023年)の12月13日(土)に「第1回クリスマス・マーケットin宮城学院女子大学」が開催されました。ミッション系スクールとしての歴史があり、礼拝堂などクリスマスのムードにふさわしいハードを備える本学。音楽や食品、国際文化などについて学ぶ学科もあり、マーケットに必要な技術・知識を持つ学生や卒業生が大勢います。こうした力を120%活かしつつ、スタッフとして関わった100名超の学生たち全員が、準備を楽しみながらその日を迎えることができました。



どのプログラムも満員御礼 笑顔あふれる一日に

イベント当日は大学構内「小ホール」に「わくわくマルシェ」が出現。手づくりのクラフト品や焼き菓子などを販売するほか、桜ヶ丘学区町内会の方たちによるパフォーマンスが披露されました。また「おいしいマルシェ」では、学生たちの手によるシュトーレンやフルーツケーキの販売。「うふカフェ」では、子どもたちに焼き菓子へのアイシングを体験してもらうワークショップも行いました。さらに「礼拝堂」



開催に携わった教授陣と学生ボランティアスタッフ



手づくりの品々も並んだマルシェ

でのハンドベル演奏や、ステンドグラスのかけらを手にしながら堂内を巡るインスタレーションを実施。マルシェやカフェのにぎわいとは一転、クリスマスの本当の意味を考えつつ祈りをささげる静謐なひとときとなりました。加えて文化プログラムとして、クリスマス・マーケットについて学ぶ講座も開催。どのプログラムも大盛況となりました。



松ぼっくりでクリスマスツリー作り



販売中の品々もきらびやか

地域との関わりも深めつつ 「桜ヶ丘」の恒例イベントに

「予想以上のお客様に恵まれ、対応が追いつかずとまどってしまう場面もありました。でも、来場された方々とのふれあいの中で、『来年はこうしよう』というアイデアや改善策も見えてきました」。「お子さん



開会礼拝



桜ヶ丘町内会によるパフォーマンス

を対象とし

たワークショップでは、みんなの楽しそうな笑顔に励まされました。スタッフとして関わった学生たちも、当日の苦勞を振り返りながら、自然と笑顔に。

青葉区まちづくり活動助成事業の一環として行われた、この企画。パフォーマンスブースへの出演や、ゲスト・ホ

ストとしてのふれあいを通じ、桜ヶ丘地域の方々との関わりもまた、おおいに深めることができました。

準備チーム代表の間瀬幸江准教授は「短期間での準備にも関わらず、無事成功を収められたのは、ひとえに学生たちの頑張りのおかげです」とにっこり。今後2回、3回を重ね、ゆくゆくは宮城学院の、ひいては地域の恒例イベントとなりそうです。



閉会式は礼拝堂前で「きよこの夜」を斉唱

★「クリスマス・マーケット in 宮城学院女子大学」の様子は右のQRコードからご覧いただけます。



Action

地域との深いつながりの中で 学生パワーを発信！

もっと、もっと地域の中で
学生のパワーを発信していきたい。
地域の皆さんと一緒に文化の力や
スポーツの力、アートの力を共有できるように
様々な場に積極的に参加しています。

書道部の大場智代さんの作品が第68回書道芸術院展で入賞！

本学書道部で児童教育学科3年の大場智代さんの作品が、2月17日（火）～21日（土）まで開催された第68回書道芸術院展（後援：文化庁・毎日新聞社）で見事入賞を果たしました。

大場さんが出展したのは「現代詩文書」部で、今回が初出展。入選作品の中から審査によって準特選、佳作、褒状が選ばれ、大場さんの作品は佳作に輝きました。「受賞を知った時はビックリしましたが、指導していただいでい

る内山先生のおかげで、すごい賞を獲得できました」と喜んで大場さん。作品は開催期間中、上野公園内の東京都美術館に展示され、最終日の21日には、帝国ホテルで表彰式も開催されました。





リーグ戦2連覇を果たしたラククロス部が 東北放送「地元スポーツ応援団 スポッチー！」に登場！

昨年の第21回東北学生ラククロスリーグで優勝し、見事リーグ戦2連覇を達成したラククロス部。昨年11月5日（水）オンエアのTBC東北放送「地元スポー

ツ応援団 スポッチー！（毎週水曜よる18時55分から放送中）」で取り上げられました。

紹介されたのは、宮城県内のスポーツ



ツをがんばるチームや団体にスポットをあてたコーナー「ちからこ部」。ラククロス部メンバーと宮城県住みます芸人・爆笑コメディアンスの2人が、楽しいやりとりを繰り広げました。メンバーの一人は「オンエアを見て、宮城学院女子大学ラククロス部やラククロスという競技に、興味や関心を持ってくれたらうれしいです」と話していました。

「東北ドリームコレクション2014」と 本学の学生がコラボレーション！

昨年10月に開催された「東北ドリームコレクション2014」。豪華ゲストによるファッションショーやライブに加えて、ビューティーブースやグルメブー

スなど、女の子たちの大好きなものが大集合したこのイベント




と、本学の学生がコラボレーションを果たしました。

開催前日の会場準備や当日のイベント運営など、スタッフや観客としてイベントに携わった学生たち。後日「更なるイベントの認知、集客アップのための企画提出」という課題に対し、企画プレゼンも行いました。

また、ローソンと本学とのコラボレーションによって誕生したスイーツとペーカリーも当日会場で販売され、見事完売しました。





一人の生活者として
お客様が身近に感じる
噺のできる落語家に

[取材]
広報室インターンスタッフ
大熊望鈴 (英文学科3年)

落語家
六華亭遊花さん

——パーソナリティとしてのキャリアはどのようなにスタートしたんですか？

大学時代は、TBCラジオで「朝のラジオカー」に乗るアルバイトをしていたんですね。そこで知り合ったスタッフの方の紹介で、卒業後は日本道路交通情報センターに就職しました。しかし母親が「東京での一人暮らしは心配だ」というので1年で帰仙しました。ちょうどそのとき、NHK仙台放送局でキャスターを募集していると耳にしたんです。それに応募し、合格したことをきっかけに「話し手」としてのキャリアがスタートしました。

——落語家になったきっかけは？

1997年、Date fmの番組でパートナーだった今野東さんが、東北弁による笑いと話芸の確立を目指して「東方法落語プロジェクト」という団体を立ち上げました。そこに誘われる形で、落語家「川野目亭南天」を名乗るようになりました。最初はパーソナリティと落語家、2足のわらじだったんですが、震災をきっかけに二



「話を盛り上げる秘訣は？」との問いに「話し上手は聞き上手」。相手に話をさせるのが大切」と六華亭さんはアドバイス



この日は「大塩市民センター」で開催された「なまっ！笑ってコミュニケーションpart4」にて、「猫の皿」「夫婦豆腐」を披露



高座が終わると、ファンの方から手づくりの差し入れや手紙が手渡されることも多いそう。「ふれあいの時間を大切にしています」

遊亭遊三師匠にお声がけいただきました。プロの落語家としてやっていくのであれば、きちんと落語芸術協会に所属した方がいい。よければ自分のところで見ると「とおつやっていただき、2012年に「六華亭遊花」と改名しました。

——パーソナリティから落語家へ転身するにあたり、ご苦労はありましたか？

実を言うと最初は「演じる」ことがとても恥ずかしくて（笑）。落語では、子どもからお年寄りまでひとりで何役も演じますが、それに慣れるまで非常に苦労したんです。稽古でも、師匠にダメ出しこそされますが、笑ってもらえることなんて「度もない。最初の頃は、ひたすら「もうダメだ」と思っていました。でもはじめの高座で、お客さんからとてもいいリアクションをいただけて。そこで初めて「あ、もしかしてイけるかも！」と思えましたね。今でも稽古は辛く厳しいものですが「早くお客さんの前で披露したい」という気持ちは、強いモチベーションになっています。

——落語家としてのポリシーがあれば教えてくださいいただけますか？

嘶に入る前のつかみを「枕」と言うんですが、私は必ずオンリーワンのものを話すことにしています。枕には定番のものもあつて、それを使う嘶家さんも多いんですが……女性で、かつ東北弁で語る私には、しっくりこないような気もして。共感できるエピソードを枕にすることで、お客様も「嘶家も、一生活者なのだ」と、身近に感じていただけたらと思うんです。

——今後の目標を教えてください。

月に1回、仙台で「魅知国（みちのく）仙台寄席」を開催しているんですが、これを東北6県で、地元の芸人さんたちとタッグを組んで開催できたらいいですね。東北では落語という文化に馴染みが薄いせいか、お客様も緊張されている場合が多いんです。でも実際に高座を終えると「楽しかった」って皆さん笑顔になってくださる。もっと気軽に落語を楽しんでいただけるよう、たくさんの場を設けていきたいですね。

Profile 六華亭遊花さん

1989年3月、宮城学院女子大学日本文学科卒。同年4月、日本道路交通情報センター入社。その後 NHK 仙台放送局のキャスターを経て、パーソナリティ・かわのめりことして TBC ラジオや Date fmなどで活躍。1997年より川野目亭南天を名乗り、落語家としての活動もスタート。2012年より三遊亭遊三門下に入り、六華亭遊花に改名した。

書道部

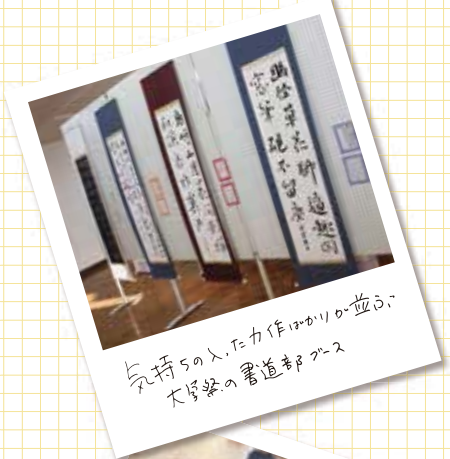
- 部員数：16名
- 活動日：毎週金曜
- 活動場所：C610教室

和気あいあいとした雰囲気の中でも各自が課題を持って練習に取り組みます！

部員のほとんどが書道（習字）の経験者で、小学校低学年くらいから続いています。普段は部員同士が仲良く和気あいあいと活動していますが、一度筆を持ってしまえば各自が課題を持って練習をしています。特に、作品発表の場である大学祭の直前は、おのずと集中力も高まってきますね。また月に1回は外部講師を招いて（作品の）できあがりを見てもらい、細かい部分にいたるまで指導してもらっています。

部員数を増やして切磋琢磨しながらより多くの展覧会に出展したい！

「集中力」を必要とする書道。集中していると、時間の経過を忘れて筆を走らせていることも。そんな内容の濃い練習を繰り返すことによって、「精神面での成長」にもつながっていきます。今後の目標としては、多くの展覧会に、積極的に作品を出展していきたいです。さらに、もっと部員が増えてくれればうれしいですね！活気も出てきますし、切磋琢磨することで、より良い作品が書けるはずですから。



与持らの入った力作ばかりが並ぶ、大学祭の書道部ブース



大学祭の果敢な思い、思いの文字を書き、書道に親しみました。



部長
花淵 栞さん
(日本文学科2年)



先輩後輩の垣根を越えて仲がよいこと MG スキー部の魅力！



眼下に望む絶景！最高です！！

サークル紹介 02

スキー部

- 部員数：25名
- 活動日：不定期（冬季が中心）
- 活動場所：白石スキー場

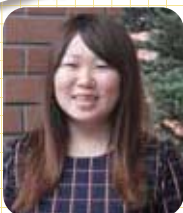
部の伝統「先輩からの丁寧な指導」で初心者もすぐに上達！

モットーは「楽しく滑ること」。大会にも出場するので、技術の向上は必要ですが、エンジョイすることが一番の技術向上につながると考えています。部員は初心者も多くいますが「先輩からの丁寧な指導」という部の伝統があるので、みんなすぐに上達していきます。私も入部当時は、小学校以来のスキーだったので多少心配はしていました。しかし先輩に教えてもらいながら滑ったこともあり、感覚を取り戻すのに時間はかかりませんでした。

先輩から受け継ぐ「丁寧な指導」に加えてスキーの楽しさも伝えていきたい

大きな大会は、年に2回出場しています。ひとつはメインの活動場所になっている白石スキー場で開催している大会で、もうひとつは岩手・秋田両県の大学と北海道学連主催の大会です。学連の大会は、各大学のスキー部員が参加するので、とても盛り上がりやすい。今後は各大会でいい成績を残すことはもちろん、私たちが先輩にしてもらったように丁寧に指導しながら、スキーの楽しさを伝えていきたいです。

部長
小松 成海さん
(生活文化デザイン学科2年)



「リチャード・リンヴァイオリンコンサート」が
開催されました(音楽科音楽学会)



5回仙台国際音楽コンクールで優勝。またソリストとして、仙台フィルハーモニー管弦楽団と競演するなど、仙台にゆかりのあるアーティストでもあります。
当日は、ブラームス作曲の「ヴァイオリンソナタ」をはじめ、才能あふれる演奏を披露。伴奏する実弟のピアノリスト、ロバート・リンさんとの息のあったアンサンブルも見事でした。会場に詰め掛けた人々は、素敵な音色を存分に堪能しました。

12月4日(木)本学ハンセン記念ホールで「リチャード・リンヴァイオリンコンサート」が開催されました。台湾系アメリカ人ヴァイオリニストのリンさんは、2013年第

レクチャー公演『琉球舞踊の世界「祈る」体の心と形』が
開催されました(キリスト教文化研究所公開公演 音楽科特別教育計画)



教授で琉球舞踊重踊流 師範の波照間永子さんと琉球舞踊重踊流二世宗家の志田真木さん。まずは波照間さんが、琉球舞踊に関する基本情報をレクチャー。続いて志田さんが、古典舞踊女踊り「諸屯」、雑踊り「谷茶前」などを披露しました。
当日は学生や生涯学習講座の受講生、教職員など、多くの観客が詰め掛け、琉球舞踊ならではの優雅な舞に見入っていました。

11月13日(木)本学ハンセン記念ホールで、レクチャー公演『琉球舞踊の世界「祈る」体の心と形』が開催されました。講師を務めたのは、明治大学情報コミュニケーション学部准

f 宮城学院女子大学 公式 facebook に「いいね！」をしよう!!

「宮城学院女子大学 公式 facebook」では、楽しかった学生時代の思い出が甦るようなキャンパス内のスポットや美しい四季折々の表情など、魅力的な情報を随時発信中! さらに旧友との感動の再会があるかも?! ぜひアクセスして「いいね!」してください!

■宮城学院女子大学 公式 facebook ページ
<https://www.facebook.com/mgu.ac.jp>



編集後記

春です。「パルティール」は「旅立ち」を意味するフランス語。卒業生の皆さん、お元気で! 新入生の皆さん、はじめまして!
そして本学も平川新学長のもと、2016年の学院創立130年に向けて新たなステージを切り拓こうとしています。というわけで、今年は何かにつけみやガクから目が離せない一年になるはず。歴史と伝統に甘んじることなく、常に進化を続ける宮城学院を今後ともよろしくお願いいたします。

(MF)



カンディフ先生は1952(昭和27)年9月、米国オハイオ州オベリン大学音楽部大学院修了直後、北米8教派が協力して組織した、戦後復興を支援する日本派遣の教育宣教師J-3の一員として来日しました。

宗教とピアノ。カンディフ先生は、どちらもできる仕事を希望していましたが、両方は無いと諦めかけていました。しかし大学院卒業時に、宮城学院を定年退職して帰国されたケート・I・ハンセン先生が、後任を探していることを知ります。内容は、宣教師として3年間、大学でピアノを教える仕事でした。カンディフ先生は、宗教と音楽を結びつける仕事ができる、と来日を決めます。

以降、女子大学宗教部長を務め、礼拝説教や教会音楽の教育に精励、音楽科において音楽教育の指導にあたり、多くの優秀な音楽家を育成するなど、約43年もの間、多大な貢献をされました。

ウィリアム・S・カンディフ(William Stanley Cundiff)先生 略歴

- 1930(昭和5)年3月 米国オハイオ州生まれ。
- 1951(昭和26)年 オベリン音楽大学卒業
- 1952(昭和27)年 オベリン音楽大学大学院修了
- 1952(昭和27)年 短期教育宣教師(J-3)として宮城学院に赴任
- 1952(昭和27)年 宮城学院女子大学 助教授
- 1963(昭和38)年 学校法人宮城学院 理事・評議員(～1992年11月)
- 1964(昭和39)年 宮城学院女子大学 教授(～1995年3月)
- 1972(昭和47)年 宮城学院女子大学 音楽科長(～1974年3月)
- 1985(昭和60)年 宮城学院女子大学・女子短期大学 宗教部長(～1989年3月、1993年～1995年3月)
- 1995(平成7)年 学校法人宮城学院 名誉理事
- 1995(平成7)年 帰国
- 2006(平成18)年 創立120周年記念会にてピアノ演奏
- 2009(平成21)年12月 米国カリフォルニア州クレアモント、ピルグリムプレイス(引退牧師宣教師コミュニティ)において逝去(79歳)



MG archives

カンディフ先生は、第1回ピアノ・リサイタルを大学講堂で開催され、定期的に幅広く演奏活動を続けました。同時にさまざまな音楽会や演奏に触れ、次のような言葉を残しています。「音楽は、ただ音符をピアノの上に写しかえるだけではいけない。例えば、バッハの曲の底にはクリスチャニティーが流れているように、作曲家それぞれの“心”が曲に表れていることも知らなければならない。それには“*How to live*”というところに心を広げ、音楽以外のもっと外のものにも目を向けなければならない」

「私はピアノの教師であると同時に、生徒でもある。それで出来るだけ、どんな音楽会にも出掛け、他の人の演奏に接する様にしている。それが一番の勉強である。自分のからの中に閉じ込めては、進歩は得られない」



1955(昭和30)年10月10日『宮城学院女子大学新聞』第55号